

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 研究期間 平成22年度～平成24年度
5. 課題番号 2 2 7 3 0 4 4 5
6. 研究課題名 特別養護老人ホーム入居家族への支援方法に関する研究

7. 研究代表者

| 研究者番号 | 研究代表者名 | 所属部局名 | 職名 |
|-----------------|-----------------------------|--------|-----|
| 2 0 3 2 2 4 3 0 | イノウエ 井上 シュウイチ 修一 | 人間関係学部 | 准教授 |

8. 研究分担者（所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。）

| 研究者番号 | 研究分担者名 | 所属研究機関名・部局名 | 職名 |
|-------|--------|-------------|----|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

入居者家族の状態不安・特性不安について、グループインタビュー前後の比較を行った。その結果、状態不安の不安得点は、グループインタビュー実施前 43.4 に対して実施後 39.6 で有意差がみられた ($t=3.24, df=18, p<.01$)。調査によって、家族同士がお互いの心情を語り合うことが、状態不安を軽減する可能性を示唆する結果となった。

施設ケアにおける家族支援は、援助者からの支援だけでなく、家族同士のささえあいの効果も視野にいれる必要がある。家族会に参加していても家族同士の情報交換、相互支援の場として家族会の活動が十分に深まらない場合があるため、グループインタビューを通じて迷いの共有や解消がなされるのではないかと考えた。

今回のグループインタビューによって家族同士が話し合う機会を持ち、自分だけが悩んでいるのではなく、周囲にも同じ思いを持っている人がいるという、関係の深まりを実感することができた。このことから、家族会が家族同士のサポート活動としてさらに発展できると推察された。入居者家族の支援においては、「当事者を支える家族」という視点だけでなく、家族自身が抱える「罪悪感」、「後ろめたさ」、「引け目」、「関わりへの不安」、「身内の変化を受け止めることの難しさ」など、入居者家族が抱く迷いの感情を吐露する機会を意識的に提供する必要がある。今後、入居者と家族がよりよく向き合い、適切な関係を継続するためにも、家族会の活動内容を家族同士のサポート活動としてさらに発展させていくことが重要となる。

10. キーワード

- (1) 特別養護老人ホーム (2) 入居者家族 (3) 迷い (4) 支援方法
 (5) (6) (7) (8)